

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
中国・四国支部 令和3年度 総会

日時：令和3年3月27日（土） 15：15 - 16：15

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

式次第：

開会

挨拶 支部長

議事

1. 令和2年度支部活動・会計の報告

1.1 令和2年度活動報告 ……資料 1-1

- 中国・四国地区SSORプログラム……資料 1-1-1

1.2 令和2年度会計報告 ……資料 1-2

- 監査報告書……資料 1-2-1

1.3 その他

2. 令和3年度支部事業計画について

2.1 令和3年度活動計画（案）……資料 2-1

- 「プロジェクトマネジメントと確率モデル」研究部会…資料 2-1-1
- 「SCM&サービス工学」研究部会……資料 2-1-2
- 「OR と数学」研究部会……資料 2-1-3

2.2 令和3年度予算（案）……資料 2-2

2.3 令和3年度支部役員（案）……資料 2-3

2.4 その他

3. 令和3年度中国・四国地区 SSOR について ……資料 3-1

4. 令和3年度支部主催シンポジウムについて ……資料 4-1

5. 中国・四国支部規約の改訂について ……資料 5-1

6. その他

閉会

中国・四国支部 令和2年度活動報告

総会（1回）

第1回 日時：令和2年3月24日（水）～3月30日（火）

開催方法：メール審議

- 議題：（1）平成31年度支部活動および会計の報告
（2）令和2年度支部役員の選出
（3）令和2年度活動計画および予算案について
（4）その他

運営委員会（2回）

第1回 日時：令和2年3月13日（金）～3月19日（木）

開催方法：メール審議

- 議題：（1）平成31年度支部活動および会計の報告
（2）令和2年度支部役員の選出
（3）令和2年度活動計画および予算案について
（4）その他

第2回 日時：令和2年12月19日（土）14:00-15:00

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

- 議題：（1）令和3年度支部事業計画について
（2）次年度支部総会についての活動・予算などの報告・計画
（3）令和2年度支部活動，実施，決算報告について
（4）令和3年度第1回運営委員会および総会の日程検討
（5）その他

支部懇親会（2回）

コロナ禍の状況により，今年度は未開催。

令和 2 年度中国・四国地区 SSOR

日時：令和 2 年 11 月 21 日（土）13:00 - 22 日（日）12:00

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

実行委員長：谷崎 隆士（近畿大学）

幹事：齋藤 靖洋（海上保安大学校），宇野 剛史（徳島大学）

プログラム：資料 1-1-1 にて掲載

参加人数：30名（内 学生18名）

令和 2 年度支部定例シンポジウム

日時：令和 2 年 12 月 26 日（土）13:00-17:35

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

共催：鳥取大学 工学部 社会システム土木系学科

実行委員長：伊藤 弘道（鳥取大学）

プログラム：

13:00-13:10 開会の挨拶（伊藤 弘道（鳥取大学））

13:10-14:10

航空宇宙製造工程における人間工学観点のヒューマンエラーリスク抽出手法

発表者：山下 茂司 氏（三菱重工業株式会社）

14:10-15:10

飛行安全・品質 確保に向けた取組み～ 意識動向の把握と意識向上施策～

発表者：首藤 慎吾 氏（三菱重工業株式会社）

15:10-15:25 休憩

15:25-16:25

ソフトウェア信頼性モデルの拡張とその応用

発表者：南野 友香 氏（鳥取大学）

16:25-17:25

ヒューマンエラー分析に基づく体系的な原子力発電所制御室設計展開手法の検討

発表者：真塩 健二 氏（三菱重工業株式会社）

17:25-17:35 閉会の挨拶（伊藤弘道（鳥取大学））

参加人数：12名

支部講演会（1回）

■ 第1回講演会

日時：令和2年12月19日（土）15:15-17:30

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

講演1（15:15-16:15）

講師：阪口 龍彦 氏（近畿大学工学部情報学科 准教授）

題目：最適化技術の実用化への取り組みと課題

講演2（16:30-17:30）

講師：廣瀬 英雄 氏（久留米大学バイオ統計センター 客員教授, 中央大学研究開発機構 機構教授）

題目：大規模ラーニングシステムから得られるアナリティクスが真の評価に迫る：

学生の習熟度評価への教員バイアスと確率的変動の関係

参加者：26名

「プロジェクトマネジメントと確率モデル」研究部会

（主査：伊藤弘道（鳥取大学），幹事：小柳淳二（鳥取大学），南野友香（鳥取大学），山田茂（鳥取大学））

■ 第1回研究部会

日時：令和3年2月16日（火）13:30-16:35

場所：鳥取大学工学部 25 講義室

プログラム：

13:30-15:00

山根 輝大（鳥取大学）

Optimal Maintenance Policies of Social Infrastructures
using Cumulative Damage Model

（道路や橋梁などの大規模な社会インフラの最適保全方策）

15:00-15:15 休憩

15:15-16:35

山田 茂（鳥取大学）

Reliability Measurement and Assessment for OSS Projects

（OSSプロジェクトのための信頼性評価）

「SCM&サービス工学」研究部会

(主査：谷崎隆士 (近畿大学) , 幹事：宇野剛史 (徳島大学))

■ 第 1 回研究部会

日時：令和 2 年 12 月 12 日 (土) 14:30-17:20

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

共催：

- ・ 日本経営システム学会 中国四国支部
- ・ 日本経営システム学会 イノベーション指向データ分析研究会

プログラム：

14:30-14:35 開会挨拶

谷崎 隆士 (日本経営システム学会中国四国支部長, 近畿大学工学部情報学科 教授)

14:35-15:50 講演 1

講師：白川 貴久子 氏 (株式会社 NTT ドコモ 執行役員 中国支社長)

16:05-17:20 講演 2

講師：林 孝典 氏 (広島工業大学 情報学部 情報コミュニケーション学科 教授)

参加者：15名

「OR と数学」研究部会

(主査：中山慎一 (徳島大学) , 幹事：宇野剛史 (徳島大学) , 大橋守 (徳島大学) , 竹内博 (四国大学))

■ 第 1 回研究部会

日時：令和 2 年 12 月 8 日 (火) 16:10-18:00

開催方法：Zoom を用いたオンライン開催

共催：徳島数学談話会

プログラム：

16:10-17:00 坂内 真三 氏 (茨城工業高等専門学校)

題目：射影平面曲線の埋め込み位相の分類問題とその展開

講演要旨：

Zariski が 1929 年に発見した例で見られる通り,複素射影平面の中の射影平面曲線について, その既約成分の個数・次数・特異点や交叉などの組み合わせ論的情報が一致していたとしても, 埋め込み位相の型が異なりうるということが知られている.

この現象を理解するために、同一の組み合わせ型を持つ曲線の埋め込み位相による分類の問題を考えることが重要である。当初は位相幾何学由来の不変量が主に用いられていたが、その後、より代数的な手法が発見され、それをを用いた研究が進められている。本講演では、近年注目され始めた「分解曲線」とそれに付随する不変量について解説し、新たに発見された例を紹介する。

17:10-18:00 宇野 剛史 氏（徳島大学大学院社会産業理工学研究部）

題目：防御配置モデルに関する研究

講演要旨：

侵略に対して障壁となりうる対象を配置することで食い止めようとする状況は、警備、災害やスポーツなど様々な分野において現れる。

本講演ではこのような状況を防御配置モデルとして数理的に構築し、最適配置を効率的に導出するための提案アルゴリズムを紹介し、数値例に適用することでその有効性を示す。

参加者：15名

■第2回研究部会

日時：令和3年2月12日（火）15:00-15:30

開催方法：Teams を用いたオンライン開催

共催：徳島数学談話会

プログラム：

[1] 15:00-15:30 小山裕也（徳島大学大学院総合科学教育部）

題目：将棋ニムについての考察

講演要旨：有限型不偏ゲームの一種である石取りゲームを研究対象とし、様々な制限下で起こる現象を閉じた式で表すこと（一般化）を本研究では目指した。石取りゲームはニムとも呼び、二人のプレイヤーがいくつかの石が積まれた山から交互に石を取り去り、最後の石を取った者を勝ちとするゲームである。実は最適手を取り続けることを前提とすると、先手後手のどちらの必勝局面であるかは決まっており、 n 山くずしまではニム和という概念によって一般化されている。しかし、ニム和を用いても未解決問題となっている「ワイトホフの二山くずし」がある。この「ワイトホフの二山くずし」とチェスを用いた「Corner the Queen Problem」の関係から派生して、将棋のアイデアを取り入れた考案されたのが竜王ニムである。竜王ニムは先行研究によって一般化されているため、その他の将棋ニムに取り組んだのが本研究である。今回はいくつか取り組んだ中で、将棋の金の動き方をモチーフに考案した「金ニム」について一般化した結果を示す。

参加者：14名

■ 第3回研究部会

日時：令和3年2月17日(火) 16:10-18:00

開催方法：Teams を用いたオンライン開催

共催：徳島数学談話会

プログラム：

[1] 14:35-15:35

金子美博 先生（岐阜大学工学部 電気電子・情報工学科情報コース）

題目：家族を増やせ -WSN モデル LEACH の場合-

講演要旨：無線センサネットワーク(WSN:Wireless Sensor Network)モデルのルーティングプロトコルの中で最もよく知られているのは、20年ほど前に開発された LEACH(Low Energy Adaptive Clustering Hierarchy)プロトコルである。驚くべきはその数の多さである。変形版が100以上存在し、今なお増え続け、LEACH family としてサーベイ論文で取り上げられるほどである。本講演では、オペレーションズ・リサーチの立場からその状況を解説し、WSN 周辺のモデルについても関連性を述べると共に、研究室での取組についても紹介する。

参加者：45名

支部長表彰（5名）

氏名：角田太介（近畿大学工学部情報学科）

卒業論文題目：生体情報を用いた暗黙知の理解プロセスに関する研究～ウェアラブル端末を用いた心拍変動分析アプローチ～

推薦者：片岡隆之（近畿大学工学部情報学科 教授）

氏名：田中哲哉（鳥取大学工学部社会システム土木系学科）

卒業論文題目：構造的トピックモデルを用いたニュースサイトのコメントと賛否の分析

推薦者：

- 伊藤弘道（鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座 教授）
- 福山 敬（鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座 教授）
- 谷本圭志（鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座 教授）
- 小柳淳二（鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座 准教授）
- 南野友香（鳥取大学大学院工学研究科社会経営工学講座 助教）

氏名：前田伊吹（広島大学工学部第二類電気システム情報プログラム 社会情報学研究室）

卒業論文題目：動的スケジューリング問題のための長期メモリを用いた進化計算手法の開発

推薦者：林田智弘（広島大学大学院先進理工系科学研究科 電気システム制御プログラム 准教授）

氏名：池原達輝（徳島大学理工学部応用理数コース数理科学系）

卒業論文題目：那覇市における交通渋滞の数理的解析

推薦者：宇野剛史（徳島大学大学院社会産業理工学研究部理工学域数理科学系 応用数理分野）

氏名：寺井大輝（岡山県立大学 情報工学部 情報通信工学科）

卒業論文題目：エントロピー／変動係数比最大化によるポートフォリオ最適化の一解法

推薦者：金川明弘（岡山県立大学情報工学部情報通信工学科 教授）

11月21日(土)

セッション, 時間	タイトル	著者	所属	時間
13:00	開場			
13:30	開会の挨拶			
1a				
13:40	警備対象に対する価値の不確実性を伴う警備ゲーム	野高 慈大 宇野 剛史	徳島大学 徳島大学	20
14:00	マルコフ決定過程による深層学習における過学習現象の判明に関する考察	周 世縁 鄭 俊俊 毛利 公一	立命館大学 立命館大学 立命館大学	20
14:20	A Note on Moment-Based Uncertainty Propagation in a Warm Standby System	張 家豪 鄭 俊俊 岡村 寛之 土肥 正	広島大学 立命館大学 広島大学 広島大学	20
14:40	休憩			
1b				
14:55	信頼性工学的な手法を利用したユーザビリティエラーの洗い出しに関する研究	松原 浩子 岡村 寛之	広島大学 広島大学	10
15:05	文章間の関係予測モデルに関する考察	北 真太郎 岡村 寛之 土肥 正	広島大学 広島大学 広島大学	10
15:15	C to Rust トランスパイラの試作	折岡 砂璃 岡村 寛之	広島大学 広島大学	10
15:25	振動法を用いたSOFL形式仕様に基づくテストケース自動生成支援ツールの開発	佐伯 賢弥 劉 少英	広島大学 広島大学	10
15:35	仕様記述言語SOFLを用いたガラス検索システムの開発	木下 綾乃 劉 少英	広島大学 広島大学	10
15:45	休憩			
1c				
16:00	レベニューマネジメントと観光・ホスピタリティの関わり	小笠原 悠	東京都立大学	60
17:00	休憩			
17:15	懇談会			

11月22日(日)

セッション, 時間	タイトル	著者	所属	時間
9:00	開場			
2a				
9:30	2レベル生産輸送計画問題に対するDEAアプローチ	岡部 純也 西崎 一郎 林田 智弘 関崎 真也	広島大学 広島大学 広島大学 広島大学	20
9:50	自動車用座席素材の硬度の制御変数に関する分析	花山 裕太 谷崎 隆士	近畿大学 近畿大学	20
10:10	ある種のクラス編成問題を解くプログラム開発	近藤 亨一 坂本 彩奈 中山 慎一	尾南高校 徳島大学 徳島大学	20
10:30	休憩			
2b				
10:40	道路や橋梁などの大規模な社会インフラストラクチャの最適保全方策	山根 輝大 伊藤 弘道	鳥取大学 鳥取大学	10
10:50	ソフトウェア残存バグ数の確率論的性質について	萩原 裕基 土肥 正 岡村 寛之	広島大学 広島大学 広島大学	10
11:00	非常常マルコフ過程を用いた人気ダイナミクスの定量的評価	岩本 和樹 土肥 正 岡村 寛之	広島大学 広島大学 広島大学	10
11:10	GISSソフトウェア信頼性モデルの推定アルゴリズムと性能比較に関する考察	矢野 大夢 土肥 正 岡村 寛之	広島大学 広島大学 広島大学	10
11:20	自動車販売台数予測モデルにおけるRNNの適用可能性検証	四茂野 友就 片岡 隆之	近畿大学 近畿大学	10
11:30	閉会の挨拶			

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和2年度支部会計

自 令和2年3月1日
至 令和3年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費	250,000	250,000	
支部事業費 (シンポジウム)	100,000	100,000	
支部事業費 (SSOR)	100,000	100,000	
利息	0	1	
収入合計①	450,000	450,001	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	5,000	17,721	ZOOM年間Pro契約(1ホスト/\$164.89)
講演会費	60,000	22,274	阪口氏, 廣瀬氏
部会費	120,000	89,096	40,000x3部会
表彰関係費	5,000	9,077	表彰対象5名 (賞状用紙367, 額縁3,080, ゆうパック袋500, ゆうぱっく5,130)
協賛費	10,000	0	
事務費	5,000	12,091	スピーカーフォン8,881, カスケードケーブル3,210
通信運搬費	5,000	1,850	レターパック1,850
支部事業費 (シンポジウム)	120,000	45,868	返金54,132
支部事業費 (SSOR)	120,000	42,129	返金57,871
本部返金	0	209,895	返金97,892
支出合計②	450,000	450,001	
当期運営残高①-②	0	0	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和2年度SSOR 会計報告

自 令和2年3月1日
至 令和3年2月28日

	費目	詳細	金額	備考	
収入	協賛・助成	OR学会	100,000		
		OR中国四国支部	0	20,000円補助の計画だった	
	小計①		100,000		
	参加費	一般		0	15,000×0名
		若手・学生		0	7,000×0名
		宿泊無 学生		0	0×0名(宿泊無,登録料免除とする)
	懇親会参加者		0	懇親会のみ一般参加者 0名	
小計②		0			
	収入合計		100,000	①+②	
支出	会場費		0		
	宿泊費		0		
	懇親会		0		
	小計③		0		
	講師謝金		11,137	小笠原氏(11/21) 11,137円, 源泉徴収1,137円	
	小計④		11,137		
	情報交換会		0		
	学生表彰(発表賞)		15,000	5000*3名	
	学生表彰(論文賞)		15,000	5000*3名	
	賞状用紙		572	Amazon	
	郵送費		420	賞状, 副賞郵送費(6通中, 簡易書留140×3通)	
小計⑤		30,992			
	支出合計		42,129	③+④+⑤	
残金			57,871		

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和2年度支部定例シンポジウム 会計報告

自 令和2年3月1日
至 令和3年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部事業費	100,000 20,000	100,000 0	本部から 支部から
収入合計	120,000	100,000	
(支出の部)			
講演会費 講演謝金	120,000	44,548 1,320	山下氏11,137円, 源泉徴収1,137円 首藤氏11,137円, 源泉徴収1,137円 南野氏11,137円, 源泉徴収1,137円 真塩氏11,137円, 源泉徴収1,137円 振込手数料3名分
支出合計	120,000	45,868	
残高	0	54,132	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和2年度支部研究部会「プロジェクトマネジメントと確率モデル」会計報告

自 令和2年3月1日
至 令和3年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	40,000	40,000	
収入合計	40,000	40,000	
(支出の部)			
講演会費	40,000	22,274	山根氏 (2/16) 11,137円, 源泉徴収1,137円 山田氏 (2/16) 11,137円, 源泉徴収1,137円
支出合計	40,000	22,274	
残高	0	17,726	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和2年度支部研究部会「SCM&サービス工学」会計報告

自 令和2年3月1日
至 令和3年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部部会費	40,000	40,000	
収入合計	40,000	40,000	
(支出の部)			
会議費	4,000	0	
講演会費	36,000	22,274	白川氏 (12/12) 11,137円, 源泉徴収1,137円 林氏 (12/12) 11,137円, 源泉徴収1,137円
支出合計	40,000	22,274	
残高	0	17,726	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和2年度支部研究部会「ORと数学」会計報告自 令和2年3月1日
至 令和3年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部) 支部部会費	40,000	40,000	
収入合計	40,000	40,000	
(支出の部) 講演会費	40,000	44,548	坂内氏 (12/8) 11,137円, 源泉徴収1,137円 宇野氏 (12/8) 11,137円, 源泉徴収1,137円 小山氏 (2/12) 11,137円, 源泉徴収1,137円 金子氏 (2/17) 11,137円, 源泉徴収1,137円
支出合計	40,000	44,548	
残高	0	-4,548	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部

令和2年度支部会計

自 令和2年3月1日

至 令和3年2月28日

	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費	250,000	250,000	
支部事業費 (シンポジウム)	100,000	100,000	
支部事業費 (SSOR)	100,000	100,000	
利息	0	1	
収入合計①	450,000	450,001	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	5,000	17,721	ZOOM年間Pro契約(1ホスト/\$164.89)
講演会費	60,000	22,274	阪口氏, 廣瀬氏
部会費	120,000	89,096	40,000x3部会
表彰関係費	5,000	9,077	表彰対象5名 (賞状用紙367, 額縁3,080, ゆうバック袋500, ゆうぱっく5,130)
協賛費	10,000	0	
事務費	5,000	12,091	スピーカーフォン8,881, カスケードケーブル3,210
通信運搬費	5,000	1,850	レターバック1,850
支部事業費 (シンポジウム)	120,000	45,868	返金54,132
支部事業費 (SSOR)	120,000	42,129	返金57,871
本部返金	0	209,895	返金97,892
支出合計②	450,000	450,001	
当期運営残高①-②	0	0	

会計帳簿および領収書を監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしました。

令和 3 年 3 月 3 日

署名

西崎 一郎



公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部			
令和2年度支部会計			
			自 令和2年3月1日 至 令和3年2月28日
	予算	決算	備考
(収入の部)			
支部運営費	250,000	250,000	
支部事業費 (シンポジウム)	100,000	100,000	
支部事業費 (SSOR)	100,000	100,000	
利息	0	1	
収入合計①	450,000	450,001	
(支出の部)			
支部運営費			
会議費	5,000	17,721	ZOOM年間Pro契約(1ホスト/\$164.89)
講演会費	60,000	22,274	阪口氏, 廣瀬氏
部会費	120,000	89,096	40,000x3部会
表彰関係費	5,000	9,077	表彰対象5名 (賞状用紙367, 額縁3,080, ゆうバック袋500, ゆうぱっく5,130)
協賛費	10,000	0	
事務費	5,000	12,091	スピーカーフォン8,881, カスケード ケーブル3,210
通信運搬費	5,000	1,850	レターバック1,850
支部事業費 (シンポジウム)	120,000	45,868	返金54,132
支部事業費 (SSOR)	120,000	42,129	返金57,871
本部返金	0	209,895	返金97,892
支出合計②	450,000	450,001	
当期運営残高①-②	0	0	

会計帳簿および領収書を監査した結果、適切に処理されていることを確認いたしました。

令和 3 年 3 月 9 日

署名 福 山 敬



公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

中国・四国支部 令和3年度活動計画（案）

1. 総会 1回
2. 運営委員会 2回
3. 支部懇親会 2回
4. 支部講演会 5回
5. 中国・四国地区 SSOR R3 後期：開催場所 鳥取市（実行委員長 伊藤弘道（鳥取大学））

【参考：直近3年分開催データ】（以後、原則山陽・山陰・四国地区で持ち回り）

山陰地区担当 H30/11/17：実行委員長 小柳淳二（鳥取大学）

四国地区担当 R1/11/23-24：実行委員長 宇野剛史（徳島大学）

山陽地区担当 R2/11/21-22：実行委員長 谷崎隆士（近畿大学）

6. 支部主催シンポジウム R3 後期：開催場所 徳島市（実行委員長 中山慎一（徳島大学））

【参考：直近3年分開催データ】（以後、原則山陽・山陰・四国地区で持ち回り）

山陽地区担当 H30/11/17：実行委員長 西崎一郎（広島大学）

山陽地区担当 R1/5/18：実行委員長 岡村寛之（広島大学）

山陰地区担当 R2/12/26：実行委員長 伊藤弘道（鳥取大学）

7. 共催・協賛研究会等 未定
8. 支部研究部会 3部会
9. 支部長表彰 若干名

1. 名称：プロジェクトマネジメントと確率モデル

2. 部会組織

主査： 鳥取大学 大学院工学研究科 教授 伊藤弘道
幹事： 鳥取大学 大学院工学研究科 准教授 小柳淳二
鳥取大学 大学院工学研究科 助教 南野友香
鳥取大学 名誉教授 山田茂

3. 設立趣旨

プロジェクトマネジメントは、現代におけるモノづくりの管理手法として産業界で幅広く活用されている。近年のプロジェクトマネジメントの特徴は、リスクを定量化するリスクマネジメントが重視される点である。不確定要素をどこまで正確に予測し有効な対策を講じるかがプロジェクト成功の鍵であり、そのためのツールである FMEA やリスクマトリクスなどの手法は既に産業界に深く浸透している。こうしたツールを用いることと並行して、過去に得られたデータを有効にリスクマネジメントに活用するために確率モデルが用いられる。

リスクの不確実さを表現するために、確率モデルは有用なツールとなる。まだ統計解析ができるほどのデータが得られていない計画段階であっても確率モデルを用いた検討は可能であるため、プロジェクトの初期からリスクマネジメントに活用することができる。しかし確率モデルを扱うには応用確率論を理解しなければならず、実務家にとって大きな障害になっている。そこで、確率モデルを扱う専門家とプロジェクトマネジメントを担当する実務者の双方が協力して同じテーマに取り組むことが求められる。

本研究部会では、確率モデルの理論研究者とプロジェクトマネジメント実務者の双方が同じテーマを議論する場を設け、忌憚ない意見を交換することで、リスクマネジメントあるいはプロジェクトマネジメントに確率モデルを有効に適用するうえでの新しい可能性を探る。

4. 対象分野

- (1) 理論分野：応用確率論，(ソフトウェア・ハードウェア) 信頼性工学
- (2) 実務分野：道路，橋梁，発電施設，航空機等

5. 研究部会開催計画

年2回以上の開催を予定している。

6. 運営方法

- ・開催の案内は、主に支部メーリングリスト等を通じて支部会員に告知する。
- ・予算に関しては、講演謝金4件(10,000円×4)を予定している。
- ・研究部会企画については、主査・幹事が主に担うが、広く支部会員からも逐次アイデアを受け、さらに充実したものとしてゆく。

以上

「令和3年度 中国・四国支部研究部会の募集」への応募—研究部会趣意書—

2021. 1. 26

近畿大学

工学部

谷崎

1. 名称：SCM&サービス工学研究部会

2. 部会組織

主査： 近畿大学工学部情報学科 教授 谷崎隆士

幹事： 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授 宇野剛史

3. 設立趣旨

従来の「ものづくり分野」「サプライチェーン分野」に加えて、「サービス分野」への生産性向上や振興が期待されている。

本研究部会は、サプライチェーンマネジメント、サービス工学における最新の研究を進めていく。理論研究発表、応用研究発表、事例発表などを含めて、ORを適用していくに際しての課題解決や実践的な方法論を討議し、行政、企業のニーズにこたえていくという姿勢で、本研究会が理論と実用の橋渡しの役割を果たしたいと思う。 そのためにも、理論家のみならず、企業関係者やコンサルなどの実務家の参加を期待している。

以上の趣旨で、平成15年度からつづいている研究会を時代のニーズにあわせて変化させつつも、さらに継続・深化していきたいと考えている。オペレーションズ・リサーチ学会の他支部、他学会と連携を深め会員に最新の話題提供ができることを目指している。

4. 対象分野

【応用分野】

- ・ サプライチェーンマネジメント、流通システムの設計・運営（ロジスティックス、マーケティングなど）
- ・ サービス工学
- ・ 生産システムの設計・運用・管理（生産方式、スケジューリング、シミュレーション、MRP, ERP, JIT, APS, スケジューリング、シミュレーションなど）
- ・ 公共関連（輸送・交通、医療福祉介護システム、資源環境リサイクルシステム、その他）
- ・ 経営関連（経営戦略、企画、設計、金融財務、組織人事教育、その他）
- ・ 情報技術（情報化企画、ビジネスプロセスモデリング、e-ビジネス、セキュリティ、インターネットアプリケーションなど）
- ・ その他 OR 関連

【理論分野】

- ・数理計画・最適化技術
- ・シミュレーション・待ち行列理論
- ・確率・統計
- ・意思決定支援技術（多目的計画、AHP、ゲーム理論、その他）
- ・ソフトコンピューティング（ニューロ、ファジィ推論、遺伝的アルゴリズム、進化的計算など）
- ・人工知能（機械学習、強化学習等）
- ・その他 OR 関連

5. 研究部会開催計画

- ・年2回以上の開催を予定している。1回当たり講師2名の研究・講演を行う。
- ・講演謝金として、10千円/人×4人 = 40千円を申請致します。
- ・1名は学界から、もう1名は産業界から招聘することを原則にする。
学界、産業界、行政などから参加者を募ることとしたい。
- ・OR学会本部、他支部や他の学会との主催、共催を図っていく。

6. 運営方法

- ・案内は、事前にOR学会会員、今までの参加者へメールリングリスト（本部および支部）で流す。
- ・関連の学会の支援を依頼し、案内を流してもらう。
- ・研究企画については、幹事が主に担うが、広く参加者からも逐次アイデアを受け、さらに充実したものとしていく。
- ・コロナ禍が収束しない場合は、オンラインでの開催とする。

以上

研究部会趣意書

名称

「OR と数学」研究部会

部会組織（主査，幹事等）

主査：中山慎一（徳島大学大学院 准教授）

幹事：宇野剛史（徳島大学大学院 准教授）

大橋 守（徳島大学大学院 名誉教授）

竹内 博（四国大学 教授）

設立趣意

OR では、数学を道具として用い、広範な現実の問題を取り組み、色々な分野における意思決定を行っている。その道具として利用してる数学の世界では、まったく異なった分野で現れる事象のもとに横たわっている共通の法則性を発見することがある。逆に、

OR の手法として開発された数学的技法が、単なる技法というだけでなく、新しい数学や数理科学の萌芽となる場合も存在する。

そこで、本研究部会では、OR、数学、数理科学の研究者などを迎え、

OR と数学の最新研究を知ることにより、相互における新たな世界構築の可能性について議論する。

対象分野

確率・統計，解析学，幾何学，代数学，最適化理論，グラフ・ネットワーク，スケジューリング，アルゴリズム，計量理論，経済，意思決定論

研究部会開催計画

年2回以上の開催を予定している。

運営方法

開催の案内は主に支部メーリングリスト等を通じて支部会員へ告知する。

予算に関しては、講演謝金4件（10,000円 x 4）を予定している。

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部
令和3年度予算

資料 2-2 (1/1)

	予算額	備考
(収入の部)		
支部運営費①	250,000	
支部事業費②	200,000	
収入合計	450,000	
(支出の部)		
支部運営費		
会議費	20,000	ZOOM Proアカウント1年分
講演会費	60,000	約12,000x5 (謝金, 旅費補助, 協賛)
部会費	120,000	40,000x3部会
表彰関係費	10,000	
事業費	40,000	支部シンポジウム 20,000, SSOR 20,000
小計③	250,000	
支部事業費 (シンポジウム)	100,000	
支部事業費 (SSOR)	100,000	
小計④	200,000	
支出合計③+④	450,000	
支部運営費残高①-③=⑤	0	
支部事業費残高②-④=⑥	0	
当期運営残高⑤+⑥	0	

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
中国・四国支部 令和3年度支部役員（案）

（五十音順，敬称略）

役職	氏名	所属	新・再・留任	備考
支部長（1名）	谷崎 隆士	近畿大学	（留）	
副支部長 （2名）	高濱 節子	広島修道大学	（再）	
	黒瀬 誠	中国電力	（留）	
運営委員 （14名）	伊藤 弘道	鳥取大学	（留）	研究普及委員
	岡村 寛之	広島大学	（留）	
	梶川 祐朗	(株) エネルギア・コミュニケーションズ	（再）	
	加藤 浩介	広島工業大学	（再）	
	金川 明弘	岡山県立大学	（再）	
	川勝 英史	尾道市立大学	（留）	
	島田 文彦	広島国際大学	（留）	
	滝本 恭司	中国電力	（留）	
	玉置 哲也	香川大学	（再）	
	田村 慶信	やまぐち大学	（新）	
	堂本 絵理	広島経済大学	（再）	
	中山 慎一	徳島大学	（留）	
	広谷 大助	県立広島大学	（再）	
	水谷 昌義	安田女子大学	（留）	
監事 （2名）	西崎 一郎	広島大学	（再）	
	福山 敬	鳥取大学	（留）	
幹事 （5名）	宇野 剛史	徳島大学	（留）	事務局
	片岡 隆之	近畿大学	（再）	
	小柳 淳二	鳥取大学	（留）	研究普及委員
	齋藤 靖洋	海上保安大学校	（留）	
	南野 友香	鳥取大学	（留）	
顧問 （4名）	大橋 守	徳島大学		
	海生 直人	広島修道大学		
	土肥 正	広島大学		
	山田 茂	鳥取大学		

2021 年度支部事業(支部主催 SSOR)計画書1. 事業名 中国・四国 地区 SSOR実施支部 主 中国・四国支部 副 _____実施時期 2021 年 11 月実施場所 鳥取市内(予定)参加予定人数 30 名(若手研究者・学生: 20 名, その他: 10 名)

イベントの内容・目的

(参加人数見積りの根拠となる過去の開催実績等がある場合は、それらの情報も記載してください。)

中国・四国支部では学生会員や若手研究者の教育・研究活動に積極的に取り組んできた。若手研究者の育成のために、支部長表彰(学生表彰)制度を平成 20 年度より創設しており、1 年あたり 4-6 名を受賞して現在も継続している。学生会員の増強や若手研究者の交流活動のために、若手研究者を主体とした研究会を定期的に開催してきた。平成 28 年度には、中国・四国支部定例シンポジウム(若手研究者合宿形式の研究会)を企画し、20 名の参加者を募ることができた。2017 年度には、日本オペレーションズ・リサーチ学会 60 周年記念事業として、中国・四国 SSOR を広島で開催し、学生と若手研究者 29 名を含む 48 名の参加者を募り 29 件の一般発表と 3 件の特別講演を実施することができた。その後も中国・四国 SSOR を継続的に開催し 2018 年度には鳥取で 24 名の参加者(うち学生 14 名)を募り、14 件の一般発表と 1 件の特別講演で研究発表会を実施、2019 年度は高松で 24 名の参加者(うち学生 15 名)を募り、16 件の一般発表と 1 件の特別講演で研究発表会を実施、2020 年度は COVID-18 の流行により、オンラインでの開催となったが 30 名の参加者(うち学生 18 名)を募ることができ 16 件の一般発表と 1 件の特別講演で研究発表会を実施することができた。

このような活動を継続すべく、2021 年度には再び実際に会場集まりセミナーが実施できることを期待して、本計画書を提出する。ただし COVID-18 の流行状況によっては再びオンラインでの開催を検討する。

2. 予算案 総額 410,000 円

収入内訳 (合計額が予算総額と一致するようにしてください。)

支部事業費(今回申請額)	100,000 円
その他	
支部運営費	20,000 円
参加費	290,000 円 (@15,000 円*10 名 + @7,000 円*20 名)

支出内訳 (合計額が予算総額と一致するようにしてください。)

ホテル宿泊費(朝食・夕食含)	300,000 円(@10,000 円*30 名)
会場費	40,000 円
講師支払(講師謝金, 交通費)	32,000 円
情報交換・交流会費用	38,000 円 うち、学生表彰費 8,000 円(@4,000 円*2 名)

3. 備考（連絡事項等があれば記載してください。）

若手研究者に刺激を与えるために、講師の方を招いて、興味ある研究の発表をしていただく、そのための謝金や旅費に加えて、学生参加のための補助をお願いしたいと考えている。中国・四国地域は海をはさむなど、交通面で不便な点が多く、開催地周辺以外からの参加には、なんらかの補助が必要である。補助は予算上均等割りにしているが、遠方からの参加者に対して傾斜して配分することも考えている。また、優秀な発表、研究に対して表彰を行うことで、学生が意欲的に研究発表できるようにする。オンライン開催の場合には大幅に費用が少なくなるが、その場合は、学生表彰を増やすことなどを実施したい。

2021 年度 支部事業(支部主催シンポジウム)計画書

1. シンポジウム名 OR 学会中国・四国支部最適化問題シンポジウム (2021 ORSJ Chugoku and Shikoku Branch Symposium on Optimization Problem)開催支部 主 中国・四国支部 副 _____開催時期 2021 年後期開催場所 徳島大学理工学部(未定)参加予定人数 40 名(正会員・賛助会員: 20 名, 学生: 15 名, その他: 5 名)

シンポジウム内容・目的

(参加人数見積りの根拠となる過去の開催実績等がある場合は、それらの情報も記載してください。)

最適化問題(Optimization Problem)とは、与えられた制約条件のもとで、ある目的関数を最大または最小にする解を求めることである。最適化問題は、制約条件や目的関数などを数理モデル(数式)で表現し、数理的な解析手法を開発する必要がある、オペレーションズ・リサーチにおける重要な研究分野の一つである。

最適化問題を解くにあたり、グラフ理論を含めた離散数学、確率論、アルゴリズム論、更に最近では AI など、理論的側面と応用的側面の幅広い分野で研究が行われている。ただし、異なる分野において研究情報を交換する場が少ないようである。そこで本シンポジウムでは、各分野で活躍する最適化問題に関する研究者に、最先端のモデル化手法や解析手法に関する講演をしていただく予定である。最適化問題に関連がある幅広い分野の研究者間で情報を交換することにより、視点の違いや新たなアイデアの創出を促すことを目的とする。一方で、学生を含めた若手研究者に対しては、先端的な研究を解説することにより、最適化問題に関する知識向上を促す。

2. 予算案 総額 119,773 円

収入内訳 (合計額が予算総額と一致するようにしてください。)

支部事業費(今回申請額)	100,000 円
その他	
支部運営費	19,773 円
参加費	0 円

支出内訳(支部事業費分) (合計額が収入内訳の支部事業費(今回申請額)と一致するようにしてください。)

講師謝金	55,685 円(11,137 円 x 5 名)
講師交通費・宿泊費	59,088 円(14,772 円 x 4 名),
会場費	5,000 円

3. 備考 (連絡事項等があれば記載してください。)

研究活性化という観点からの特徴
最適化問題に関する研究分野は、理論的内容から実用的内容まで非常に幅広い。しかし、異分野の研究情報を交換する機会がなかなか存在しない。そこで本シンポジウムでは、最適化問題のモデル化から解法に関する幅広い分野の研究者に講演頂き、情報を交換することにより今後の研究に生かすこと目的とする。また、若手研究者との意見・情報交換により刺激的な交流ができるものと考えている。

教育・普及効果という観点からの特徴
各講演者には、最適化問題における課題と、その解決方法を丁寧に解説いただくことを予定している。これは、参加学生が必ずしも最適化問題に詳しくないことを前提としている。このような講演により、聴講している学生自身がこの研究分野への興味向上を期待している。

会員増強という観点からの特徴
OR 学会員のみならず、近隣の理工系大学に在籍する、情報工学、システム工学、経営工学、金融工学など最適化に関連する研究者と学生へも参加案内を出す予定である。OR における最適化問題に関する研究を紹介するとともに、OR 学会員のメリット(学生会員の会費無料化)を案内することで、会員の増加をはかる。

予算規模妥当性

講師は 5 名を予定しており, 支部事業費として 5 名分の謝金および 4 名分の県外講師に対する旅費・宿泊補助を申請している。会場については, 徳島大学工学部講義室を検討しているが, 大学の講義室を学外団体が利用する場合には料金が必要となるため, 会場費の計上をしている。

中国・四国支部規約の変更案

(現状) 第2条 本支部は、事務所を 広島県 東広島市 鏡山 1-4-1 広島大学大学院工学研究科情報工学専攻内におく。

(変更) 第2条 本支部は、事務所を 中国・四国支部の地域内に置く。

(変更理由)

現状では、事務局は必ず広島大学となり、広島大学の先生に大変ご負担をおかけすることになります。

また、広島大学さんの専攻名の変更のたびに(厳密には)変更要となります。

(中部支部も現状は「名古屋市あるいはその近郊におく」となっているのを変更される予定です。)

(現状) 第14条 監事は、支部の業務および会計を監査する。

(変更) 第14条 監事は、支部の業務を監督する。

(変更理由)

上述のとおり。

支部規約の変更ルール：第25条に掲載

中国・四国支部規約

(名 称)

第 1 条 本支部は、日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部と称する。**第 2 条** 本支部は、事務所を 広島県 東広島市 鏡山 1-4-1 広島大学大学院工学研究科情報工学専攻内におく。

(目 的)

第 3 条 本支部は、日本オペレーションズ・リサーチ学会（以下本部と称する）の目的達成のために必要な地域活動の推進をはかる。

(事 業)

第 4 条 本支部は、前条の目的を達成するためにオペレーションズ・リサーチに関する次の事業を行なう。

- (1) 研究会、講演会の開催
- (2) 図書、文献の収集、保存
- (3) 印刷物の作成、配布
- (4) その他必要と認められる事業

(会 則)

第 5 条 本支部は、原則として次の地域に在住または勤務する会員(正会員、学生会員、賛助会員の代表者または代理者、名誉会員)をもって構成する。

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県

(役 員)

第 6 条 本支部は次の役員を置く。

- (1) 支部長 1 名
- (2) 副支部長 若干名
- (3) 運営委員 若干名
- (4) 監事 2 名
- (5) 幹事 若干名

第 7 条 役員を選出は、支部総会において会員の互選による。**第 8 条** 役員任期は、2 年とする。ただし再任はさまたげない。**第 9 条** 役員欠員を生じた場合は、役員会の推薦により、補充することができる。ただし後任者の任期は、前任者の残任期間とする。**第 10 条** 本支部に顧問をおくことができる。本支部の活動に特に貢献があった者を顧問として役員会が推薦し、これに基づいて支部長が委嘱する。顧問は支部の重要事項について支部長の諮問に応じて意見を述べ、随時会議に出席することができる。

(運 営)

第 11 条 支部長は、支部を代表するとともに、支部業務を総括し、支部会議を召集してその議長の任に当たる。**第 12 条** 副支部長は、支部長を補佐し、支部長事故ある時は、支部長の業務を代行する。**第 13 条** 運営委員は、支部長の諮問に応じる。**第 14 条** 監事は、支部の業務および会計を監査する。**第 15 条** 幹事は、支部業務の円滑な運営にあたる。**第 16 条** 支部は、本部の庶務、刊行物および会計に関する内規の適用を受ける。

(会 議)

第 17 条 支部会議は、支部総会および支部役員会とする。**第 18 条** 通常支部総会は、年 1 回、会計年度終了後 2 ヶ月以内に、支部長が召集する。また、役員会が必要と認めるとき、および支部会員の 1/5 以上が要請するときは、臨時支部総会を開催する。支部総会は、会員現在数の 1/3 以上の出席をもって成立する。ただし、委任状による出席を認める。

- 第 19 条** 支部総会は、次の事項を審議・決議し、決議事項はすべて本部に報告し、承認を受ける。
- (1) 役員を選出
 - (2) 運営方針、事業計画および予算、事業報告および決算
 - (3) 支部規約の変更
 - (4) その他

第 20 条 支部役員会は、支部長、副支部長、運営委員、監事、幹事をもって構成し、必要の都度開催する。支部役員会は、構成員の 2/3 以上の出席をもって成立する。ただし、委任状による出席を認める。

第 21 条 支部会議の議決は、とくに定める場合を除き、出席者の過半数で決する。なお委任状による議決への参加を認める。

(会 計)

第 22 条 支部は、本部からの交付金をもってその経費にあてる。

第 23 条 支部の会計年度は、毎年 3 月 1 日から、翌年 2 月末日までとする。

第 24 条 支部は、毎年度末に事業ならびに収支報告書を作成し、本部に提出する。

(支部規約の変更)

第 25 条 この支部規約は、支部総会で出席者の 2/3 以上の賛成を得、かつ本部理事会の承認を得て変更することができる。

(附 則)

本支部規約は、昭和 48 年 3 月 1 日より施行する。

本支部規約は、昭和 49 年 3 月 1 日一部改正した。

本支部規約は、昭和 51 年 3 月 1 日一部改正した。

本支部規約は、昭和 57 年 3 月 1 日一部改正した。

本支部規約は、昭和 63 年 3 月 1 日一部改正した。

本支部規約は、平成 4 年 3 月 1 日一部改正した。

本支部規約は、平成 10 年 3 月 1 日一部改正した。

本支部規約は、平成 14 年 3 月 1 日一部改正した。